

博物館だより

No.35

平成21年3月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館友の会

伝統芸能鑑賞会

参加者募集!

博物館友の会では、次のとおり「伝統芸能鑑賞会」を実施します。

参加を希望される方はお早めにお申し込みください。

■日時 平成21年3月15日(日) 午前8時30分博物館発

午後3時頃帰着予定
■内容 豊前路に春を告げる神事「英彦山御田祭」を鑑賞します。

鑑賞後、奉幣殿から豊前坊まで4km程度歩きます。

■参加費 500円(全額保険代) 弁当は持参です。

■申込方法 博物館まで電話にてお申し込みください。定員になり次第締め切ります。

友の会会員外の方は入会後の参加をお願いします。

3月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】
3月7日(土) 9時30分

【古文書講座】
3月14日(土) 10時00分

【みやこ講座】
3月21日(土) 10時00分

【金曜古文書講座】
3月27日(金) 10時00分

【古典かな講座】
3月28日(土) 30分

歴史を学ぼう!文化にふれよう!

歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩文講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

なお講座では毎回資料代実費として200円が必要となります。

また、継続して受講を希望される方の申込については不要です。受講希望の方はお気軽に博物館までお問い合わせください。

*講座内容紹介

【漢詩文講座】

●講師 宮原加代子 先生

●内容 昭和の元号を創案した吉田増蔵(号は学軒)の詩の鑑賞を主に、彼が学んだ水哉園(村上仙山の私塾)をめぐる人々にふれます。初心者の方も大歓迎です。

●実施日 毎月第1土曜日 午前9時30分

【古典かな講座】

●講師 宮原加代子 先生

●内容 今年「万葉集」巻末の歌が読まれて千二百五十年目。万葉のころを万葉仮名の手習いと古筆鑑賞で追ってみます。初心者大歓迎!用紙と鉛筆あるいは筆ペンをご用意下さい。

●実施日 毎月第3土曜日 午前9時30分

【古文書講座】

●講師 当館学芸員 川本英紀

●内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関係する古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

●実施日 毎月第2土曜日 午前10時00分

【金曜古文書講座】

●講師 当館学芸員 川本英紀

●内容 博物館に寄託されている「岡家文書」を継続して読み進めます。幕末維新期を生きた旧小倉藩士・岡出衛という人物の一代記など、読みごたえのある史料ばかりです。

●実施日 毎月第4金曜日 午前10時00分

【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員 辛嶋眞治

●内容 郷土の歴史について実際に遺跡や博物館を見学したり、発掘調査の出土品に触れたりしながら、体験的に学習します。

●実施日 毎月第4土曜日 座学は午前10時00分

見学会はその都度連絡します。



《古文書解読コーナー》

① 系猫

② (ヒント) 準備〇〇

③ 破分

(ヒント) 割り当て

④ 借取

(ヒント) ねがいがかんう

⑤ 借取

(ヒント) ガードする

⑥ 借取

(ヒント) 忙しい

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① 借取
- ② 借取
- ③ 借取
- ④ 借取
- ⑤ 借取
- ⑥ 借取

みやこの歴史発見伝 24

屋根裏からのメッセージ②

大量の「お札」の中から見えてきたもの

「お札入りの俵」のその後

平成20年10月発行の博物館だよりで紹介した、伊良原地区の民家の屋根裏から見つかった「俵詰めのお札」の話のことをご記憶ですか？

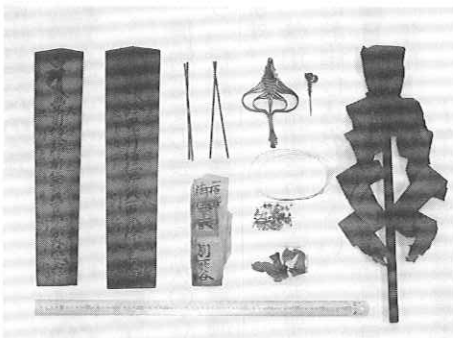
ダム工事に伴う転居のため解体中だった個人宅の屋根裏に置かれていた俵には、幕末期のものと思われるお札がぎっしり詰め込まれていて、廃材もろとも焼かれようとしていたものを間一髪で救出し、貴重な民俗資料として回収することができたというお話です。

記事では3つあった俵のうち一つを解体調査した結果を中間報告の形で紹介させていただきましたが、その後残りの俵の調査も行ったところ更なる発見があり、結果の一部はつい先頃終了したミニ企画展で紹介させていただきました。また、「お札」という現在も使われる身近な素材だったからでしょうか、思っていたよりも多くの方々にご覧いただきましたが、そのお札の意味も込め、以下に成果の概要を簡単に紹介して参りましょう。

残りの俵解体後の成果と謎

すべての俵を解体調査した結果次のようなことがわかってきましたが、簡条書きにしてみると次のようになります。

- ①お札は総数一七四一点に上る
(一部反故紙なども含む)
- ②お札の総重量は7.5kgほど
- ③お札の発行所と比率は地元・近隣系社寺11(75%)・遠隔地系社寺15(25%)からなる
- ④最も遠隔地の発行所は陸奥国(福島県)伊馳見大明神
- ⑤発行数量のトップは今井祇園社で一〇二八点・全体の6割を占める圧倒的数量を誇る
- ⑥お札以外のものも詰め込まれ



▲俵内に詰め込まれていたお札以外の品々

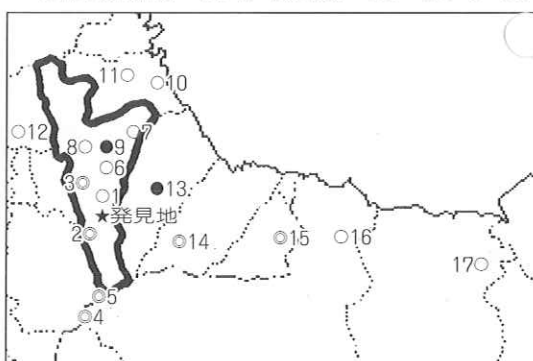
俵内の「お札」の発行社寺別一覧

概念単位	国郡村名	現在の地域名	番号	発行社寺等	社寺別	規格					小計	総計	占有率	備考								
						大	中	小	極小	その他												
内	津市	下伊良原	1	大行神社	○	11	10			1	22	38	1	2	現：高木神社							
			2	鎌倉権現	○	15	1				1					16						
			3	蔵持山	○	11	63	1		11	86					5						
			4	茨彦山	○	14	32	1	2	2	51					3						
			5	(豊前坊)	○	8	83				98					6						
			6	宇都宮・安楽舎大明神	○		1				1					1						
			7	天八幡社	○		8				8					1						
			8	生立八幡宮	○	2					2					2						
			9	国分寺	●	1					1					1						
			10	今井祇園社	●	953			75		1,028					59						
内	津市	行橋市	11	生八幡宮	○		2			2	1,277	73	2	現：木井神社								
			12	香春宮	○		21	1		22					1							
			13	正光寺	●		2			2					2							
			14	求菩提山	○		23	24		48					3							
			15	松尾山	○	15	3			12					30							
			16	壽社	○		1			1					1							
			17	宇佐八幡宮	○	20	25	1		5					51	3						
			外	津市	福岡県	18	太宰府天満宮	○		2							2	151	9	2	現：太鼓谷稻荷	
						19	水天宮	○									1					1
						20	三本松稲荷大明神	○	2	9							11					0.5
21	出雲大社	○					17			17	1											
22	住吉大社	○					2			2	2											
23	天社神道	■					30	1		31	2											
24	伊勢大神宮	○					49			14	64	4										
25	高野山	○				1	3			4	4											
26	伊馳見大明神	○					11			11	0.5											
その他	津市	福島県				27	大仙坊	■	7				7	82	1	5	現：伊佐須美神社 地神官備か 紀伊郡・豊前・豊後・肥後・肥前・肥後					
			28	廻札(廻國聖など)	■	2	9			11	1											
			29	不明	■	1	24			13	26	4										
			30	その他の関係品	■					55	55	3										
反古類										55	3	3	包装紙他									
総合計						1,064	430	104	15	135	1,741	1,741	100	100								

注1. 「その他」は箱大麻・牛王宝印・絵札・御守等の規格外品をさす
 2. 「社寺別」の凡例は次のとおり ○神社 ●寺院 ◎修験 ■その他(陰陽道・地神官備など)
 3. 占有率は総計数(反古類を除く)に占める札数の割合を指す
 4. 色分区分概念は以下のとおり ■ 筋丸手永 ■ 小倉藩領



▲お札の発行社寺マップ①(全国版) *記号・番号は表に対応



▲お札の発行社寺マップ②(ご当地[豊前国内]版)

ていたが、多くは仏神事に由来する品物である。
 *具体的には御幣・木製祈禱札・御供米(赤飯?)・橋・水引・箸・遣花など
 以上は数値や単純な事実関係です。すなわち「謎」であることが理解・納得できるのですが、そうはいかない「なぜ？」の想いがつる「謎」といってもよい事象もいくつか確認される結果となりましたのでこれも簡条書きにご紹介しておきましょう。

- ①今井祇園社の札の中には、祇園講(信者サークル)の講員に配るため、講ごとに束にしてまとめられているものがあるが、かなりの量の束が残されていることから、配られた形跡が見られないこと。
- ②伊勢神宮の大麻にも束のままのものがあり、未配布らしい。
- ③お札内部の祓串を数十本もまとめて束にしたものがある。といったところが代表的なものです。①・②については幕末という時勢柄、お札を配布する時間的余裕すら失われていたのでは?とか③については、紙をリサイクル使用するためにお札から抜きとって集めたのでは?といった風にも推測できそうです。

詳細の究明はこれからですが、屋根裏からのメッセーは中々奥が深いようです。
 (木村達美)